

福祉だより 信州



社会福祉 HERO'S vol.18

詳しくは巻末をご覧ください。



特集

2021 信州ふっころフェスティバル
第70回長野県社会福祉大会 / 「介護の日」県民の集い 併催

No.

792

2022 1月号

「ともに生きる」を発信する

2021

実践目標 ② 福祉介護の魅力発信とイノベーションの促進

信州ふっころフェスティバル

第70回長野県社会福祉大会／「介護の日」県民の集い 併催



「ふっころちゃんねる (YouTube)」にて公開しています。

令和3年11月13日(土) 開催

主催：信州ふっころプラン推進会議（県内の地域福祉を推進する民間101団体で構成）

オープニング



川崎昭二さんの生演奏からスタート



総合司会は長野県出身で介護福祉士として現場に従事しながら、モデルとして介護職の魅力を世に伝える活動を精力的に行う上条百里奈さん。

県内の福祉関係団体と、ともに歩む方向性を示した信州ふっころプラン（長野県地域福祉活動計画）を手に、信州の自然と風土のなかで、様々な個性を持った人々が「ともに生きる」「ともに創る」地域共生社会を目指して「信州ふっころフェスティバル2021」が開催されました。



ケアコン2021長野県知事表彰式



長野県障がい者スポーツ協会 パラスポーツ
加藤 正 さん
障がいに関係なく楽しめるパラスポーツは
共生社会の第一歩

オープニングでは、信州ふっころプランに掲げる「ごちゃまぜ」の力をまちづくりの原動力に「福祉教育実践で活躍している方々がメッセージで伝えました。また、東京パラリンピックの開会式でギターを熱演した川崎昭二さん（長野県社協勤務）がライブハウスから生演奏をして、コロナ禍の中でも人と人のつながりの大切さを確認し、共生とふくしの未来をみんなで感じる集いがスタートしました。



公益社団法人長野県介護福祉士会 会長
鈴木 よし子 さん
ごちゃまぜの力を原動力に個性や多様性が輝く地域に



ユニバーサル・サポート課 代表
牛山 玲子 さん
福祉教育や共生教育に取り組み、心のバリアフリーを発信

地域共生スペシャルトーク

高年齢、障がい、児童の各分野の次世代リーダーが、福祉・介護の現状と課題を踏まえ、10年先の福祉のあり方を阿部県知事と意見交換しました。

●高年齢分野 菅垣氏

人材不足への対応として、介護ロボットやICTの活用、科学的介護情報システム（LIFE）の推進等があり、介護分野でも少しずつ科学的介護をみんなですべて育てていきたい。

●障がい分野 中島氏

障害者権利条約を基にして地域移行に力を入れており、地域あんしんコーディネーターの配置により障がい分野のみならず、高年齢・児童分野あるいは医療等の専門機関、地域住民、警察や消防、コンビニ等とのつながりを少しずつ深めている。制度やサービスありきではなく地域資源と福祉の両輪で取り組んでいきたい。

●児童分野 福原氏

児童福祉は子どもの幸せを実現するための社会的な営みであるが、最前線でも支える多くの養育者たちが疲弊している課題がある。信州ふっこうプランの実践目標⑥に掲げる、「福祉を支える人を「育てる・支える」仕組みの充実」を切に願っている。

●ゲスト 阿部県知事

人と人が触れ合う現場が一番大事。各施設や福祉に携わる一人ひとりの日頃の活動が総体として長野モデルになっていく。A1時代においても確実に福祉に必要な仕事であると思うし、そうではないと本当に安心して暮らせる社会にならないと思うので、ぜひ皆さんと力を合わせて取り組んでいきたい。



【高年齢分野】菅垣 憲英氏
 (福)菅垣会 特別養護老人ホーム「延暦寺広済寮」
 福祉という言葉は、本来は幸福（ウェルビーイング）の意味がある。社会福祉法人は全国で2万法人あるのそれぞれの地域で小さな幸せを生み出せる存在でありたい。



【児童分野】福原 隆和氏
 児童養護施設 恵愛
 子どもは全ての主体、全ての担い手になりうる可能性の象徴。その象徴を真ん中にした社会を目指すために、子どもを支える職員が、愉快地、気分良く、誇りをもって取り組みたい。



【障がい分野】中島 知幸氏
 北信圏域障害者生活支援センター
 福祉の仕事はトップ20にも入っていない。子どもの頃から様々な方々が自分の生活圏に当たり前にいて、当たり前に関わり合いのある社会であること、インクルーシブ教育が重要。

介護の日スペシャルトーク



第2回 長野県介護技術コンテスト(ケアコン)

介護職員や介護を学ぶ学生が、介護技術を競うことで県民に介護のすばらしさを発信し、「介護の仕事」への理解を深めるために実施しました。



最優秀賞

<介護職員部門>

(福)ハーモニー福祉会(長野市)

【チームレインボー】

<学生部門>

松本短期大学介護福祉学科(松本市)

【Aチーム】

コンテストの結果・詳細は、QRコードからWebでご覧ください。



介護の日スペシャルトークでは、長野県で福祉・介護分野で就活を予定している学生とゲストの杉本浩司氏(メディカル・ケア・サービス(株))で、『謎の「ふくにんマーク」を探れ!』をテーマに座談会を行いました。

「信州ふくにん」は人材育成や職場環境整備の視点から、福祉事業所を認証する福祉事業所認証・評価制度です。「信州ふくにん」を取得している(福)れんげ福祉会(大町市)と(福)ハーモニー(松本市)の職員のインタビュー動画をみて、3人の学生は「こんな職場で働きたい」「働いている様子が楽しそう」と口を揃えていました。

一方で「本当に休暇が取れるのか、キャリアアップできる職場なのか、積極的に情報発信してもらいたい」「児童福祉分野は認証取得の取り組みが少ない」「多職種連携等も評価して欲しい」

など、就職を意識した鋭い発言も。杉本氏は「若者が福祉の現場を選ぶ基準として、『信州ふくにん』を広げるのは『大人の責任』とまとめました。

また、第2回長野県介護技術コンテストで最優秀賞をとった松本短期大学の学生も登壇し、「ケアコンを通じて、改めて一人ひとりを大切にしたいケアが必要と感じた。就職しても忘れずに仕事をしていきたい」と今後の意気込みを語ってくれました。

これから福祉の仕事を目指す人たちのためにも、福祉事業者が働きやすい、働きがいのある職場づくりに対して、皆で取り組むことを求められていると実感しました。





かえる放送局

エネルギーにあふれる、バラエティに富んだ仲間たちが「かえる放送局」を通じて、社会へ、誰かへ、自分へむけて、日頃心に秘めている思いを心置きなく表現します。

(NPO法人HappySpotClub 代表 高山さや佳さんのコメント)

若者たちが賑やかに個々の持ち味を生かし各コーナーを彩ってくれました。



新型コロナウイルス感染症の影響により会えなかったみんなとやり取りをし、様子を聞く中で、みんなが体調を崩していたこと、進路に悩んでいたこと人生に悩んでいたことを知るきっかけにもなりました。

私たち HappySpotClub は、一年に何度となく開催してきた大小様々なイベントを通じて、自然とお互いの様子を知り、支え合い、共に歩んで来ました。コロナにより生活スタイルが大きく変化した今、改めて新しい関係性と未来を創造していく時なのかもしれません。みなさんとの繋がりとご協力に感謝しています！

そしてこれからも、新たなスタートへ向けて動き出していきたいと思えます。ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました！

番組は、こちらから(*´ー´*)

<https://youtu.be/YFegep3u8Hc>



イラスト提供アーティスト：ひまむし
撮影協力：カミジョウミカさん・こっしー・シュンジ・まどか&やわら・花田養護学校の生徒さんと先生・豊野高等専修学校の生徒さんと先生・ハビスポスマイルの子どもたち・月岡くん・川崎さん・口丸家の皆さん

声の出演：なごみちゃん・もっぴー・水澤次男

動画編集：もっぴー・なっちゃん・ショウくん

制作責任：NPO 法人 HappySpotClub

編集協力：キャメロット

あんしん未来コーナー



社会的な課題が多く、子育ての環境が十分に整わない世帯があり、学校や地域などで居場所がなくなっという課題がある中、まいさの相談者から、誰もが集える居

場所が欲しいという声で生まれた居場所です。カヤックや出し物で子どもたちが無邪気に楽しんでいる様子も多く、スタッフ、親御さんも一緒に楽しんでいます。くるmeに集う人、皆が居場所の構成員で皆が居場所を楽しむ人ということ、参加者やスタッフ誰もがほっとする、楽しいと感じる居場所でした。

●箕輪町より
「ウォーキングフットボール（歩くサッカー）体験会」年齢や性別、サッカー経験の有無を問わず、誰もが楽しめるウォーキングフットボ

ル。スポーツを通してつながりの輪を広げたい、と住民有志で始めました。参加者には外国籍の方もおり、国籍を越えた交流も目指しています。

当日は、はじめて参加した方にも自然と声を掛け合い、いつの間にか参加者みんなの心の距離も縮まっています。まさにみんなを笑顔にする魔法のスポーツ。笑顔の輪も広がっていました。

参加者には外国籍の方もおり、国籍を越えた交流も目指しています。



長野復興ちゃんねる

2021 11月13日 12:30 - 14:30

信州ふっころフェスティバル

長野復興ちゃんねる

令和元年東日本台風災害から2年。

被災地は今、地域課題に向き合う住民活動の推進を迫ります。



https://www.youtube.com/channel/UCgAP_az_5DzzO6ddqV0JfaA

防災福祉の動画教材

「長野復興ちゃんねる」で公開中



令和元年東日本台風災害から2年、被災地は今、地域課題に向き合う住民活動の展開、被災当時、被災者を想った皆さんのボランティアが復旧の大きな力に。あれから2年、被災地域の住民による地域への想い、地域活動から湧き上がる想いが復興の力につながっています。被災地域で活動する長野市の住民の声、災害ボランティアセンターから復興期の被災者見守り支援事業（生活支援・地域ささえあいセンター）の取組を振り返った佐久圏域・北信圏域の復興支援会議から、被災者や被災地域に寄り添い続け、エンパワーメントを引き出した活動実践、復興活動の原動力についてを考えました。

福祉のお仕事！ インスタPR大賞



今回は計16チームからエントリーがあり、公式Instagramでは様々な法人、事業所の「お仕事風景」や「法人・施設のPR」、「メッセージ」等、チームごとの特色のある投稿をご覧ください。

本イベントはInstagram上の「いいね！」という機能を活用し、「いいね！」の数が最も多い投稿を大賞作品とし、後日表彰いたします。

コロナ禍において、医療と連携しながら感染症対策を徹底し、皆様の「ふだんのくらしのしあわせ」を守っている福祉従事者の方々へ「いいね！」での応援をお願いします。



INSTA.PR.FUKUSHI

ふっころアンテナ・ショップ



長野県障がい者施設イチ推しフードアワード2021

たくさんご応募いただきありがとうございました。この機会に福祉施設の商品に興味を持っていただき、ご近所やお知り合い、仕事仲間等にも広げていただくと幸いです。

長野まごころネットは、長野県内の福祉施設で働く障がい者が「まごころ」込めて作った商品を販売する通信販売サイトです。売り上げの中から障がい者に工賃が支払われ障がいをもった方への支援の一助となります。



長野まごころネット ホームページ



皆さんへメッセージ



信州・HEY! わっば菓子べんとう (信州・平和わっば菓子べんとう) カフェギャラリー てくてく

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

令和3年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

保険金額・年間保険料（1名あたり）

保険金の種類		プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術 入院中の手術		65,000円	
	保険金 外来の手術		32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金(対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料			350円	500円

＜基本プランに加入される方へ＞

基本プランでは、地震・噴火・津波が起因する死傷は補償されません。

◆災害ボランティア活動の参加は、「天災・地震補償プラン」への加入をおすすめします。

※被災地でのボランティア活動では、予測できない様々な事態が想定されます。二次被害への備えとしても、あらかじめ「天災・地震補償プラン」に加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

<https://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

検索

商品パンフレットは
コチラ
（ふくしの保険ホームページ）



ボランティア行事用保険

送迎サービス補償

福祉サービス総合補償

（傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険）

（傷害保険）

（傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険（オプション））

●このご案内は概要を説明したものです。お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJ20-12302 2020.12.28 作成)

令和3年度

社会福祉施設
総合損害補償

しせつの損害補償

インターネットで保険料試算できます

ふくしの保険

検索

老人福祉施設、障害者支援施設、児童福祉施設の

事故・紛争円満解決のために!

◆加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営する社会福祉施設です。

プラン1 施設業務の補償 (賠償責任保険、動産総合保険等)

1 基本補償(賠償・見舞)

▶ 保険金額		基本補償(A型)	見舞費用付補償(B型)
賠償事故	身体賠償(1名・1事故)	2億円・10億円	2億円・10億円
	財物賠償(1事故)	2,000万円	2,000万円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	200万円
	うち現金支払限度額(期間中)	20万円	20万円
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	1,000万円
	身体・財物の損壊を伴わない経済的損失(期間中)	1,000万円	1,000万円
お見舞い等	徘徊時賠償(期間中)	2,000万円	2,000万円
	事故対応特別費用(期間中)	500万円	500万円
	被害者対応費用(1名につき)	1事故10万円限度	1事故10万円限度
	傷害見舞費用		死亡時100万円 入院時1.5~7万円 通院時1~3.5万円

保険期間1年

▶ 年額保険料(掛金)

定員		基本補償(A型)
補償基本A型	1~50名	35,000~61,460円
	51~100名	68,270~97,000円
	100名以降1名~10名増ごと	1,500円
付見舞費用B型	基本補償(A型) 保険料	+
		[見舞費用加算] 定員1名あたり 入所: 1,300円 通所: 1,390円

プラン2 施設利用者の補償

プラン3 施設職員の補償

プラン4 社会福祉法人役員等の補償



です。 充実した補償と 割安な保険料

スケールメリットを活かした

●この保険は全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約(賠償責任保険、医師賠償責任保険、看護職賠償責任保険、雇用慣行賠償責任保険、役員賠償責任保険、サイバー保険、普通傷害保険、労働災害総合保険、約定履行費用保険、動産総合保険、費用・利益保険)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問い合わせは下記までお願いします。●

団体契約者 ▶ 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事 保険会社〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
TEL: 03(3349)5137
受付時間: 平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

取扱代理店 ▶ 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL: 03(3581)4667 FAX: 03(3581)4763
受付時間: 平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

(SJ20-12299 2020.12.28 作成)

介護支援専門員の資格をお持ちの方へ 更新研修の受講は忘れずに!

介護支援専門員の資格を更新するためには、資格の有効期間が満了するまでに、更新研修を受講する必要があります。資格の更新については、自己管理することになっています。更新研修の受講を忘れないようにしましょう。

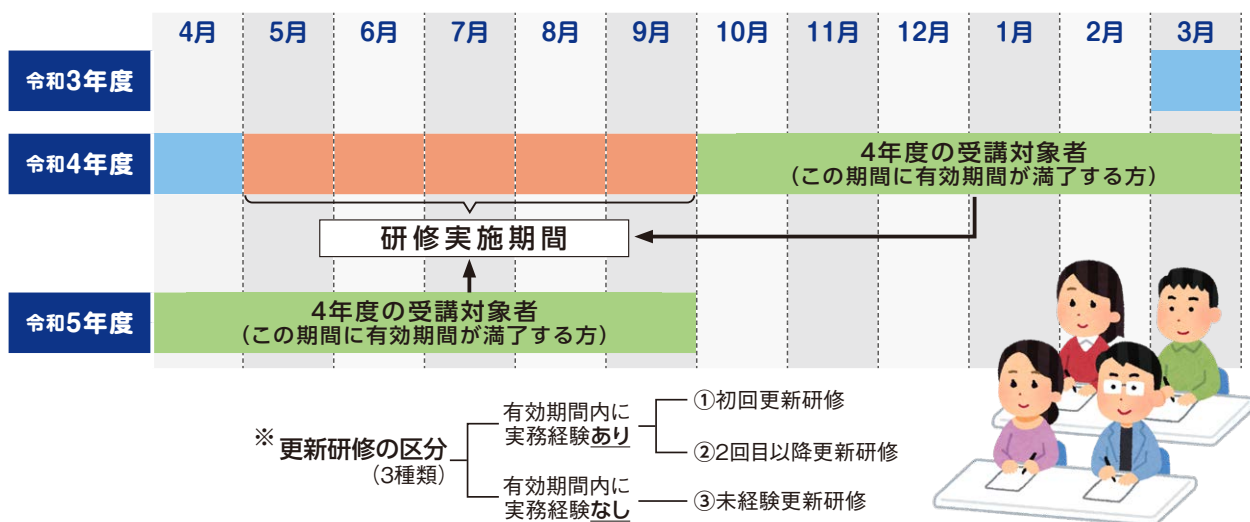
長野県では、

- 10月から3月に有効期間が満了する方は、その年度
- 4月から9月に有効期間が満了する方は、前年度 に研修を受講することになります。

研修の申込については例年、3月中旬ごろ～4月中旬ごろに県社協HPへ掲載していますので、ご確認いただき、お申込みください。

更新研修を受講するスケジュール例 (概ね毎年度同じ)

- 令和4年度の受講対象者 令和4年度の10月1日～令和5年度の9月30日までに有効期間が満了する方
- 令和4年度の申込期間 概ね 令和3年度の3月中旬ごろ～令和4年度の4月中旬ごろ
- 令和4年度の実施期間 概ね 5月下旬ごろ～9月中旬ごろ (研修区分*によって実施期間は異なります)



主任介護支援専門員更新研修の受講時期については、上記とは異なり、主任介護支援専門員資格の有効期間により変わります。詳しくはケアマネ研修情報センターへお問い合わせください。

ケアマネ研修情報センターでは、介護支援専門員の再研修 (有効期間が切れてしまった方向け) や、主任介護支援専門員研修 (主任資格を取得したい方向け) も実施しています。研修の申込については更新研修と併せて、3月中旬ごろ～4月中旬ごろに県社協HPへ掲載していますので、ご確認ください。

お問合せ

長野県社協ケアマネ研修情報センター

TEL : 026-226-2000
Mail : care@nsyakyo.or.jp



県内の社会福祉協議会による地域公益活動 「長野県あんしん創造ねっと」の取組 Part3

「長野県あんしん創造ねっと」とは、県内の社協（市町村社協及び県社協）による地域公益活動の展開です。既存の制度では支援が届かない個別の生活課題に対応するため任意のメニューを開発し、各地域で取り組んでいます。

前回11月号では、「乳幼児支援品提供事業」及び「買い物同行支援事業」についてご紹介しました。今回は、次の事業を紹介します。

医療受診支援事業

障害者手帳の取得によるサービス利用や年金の受給が望まれるものの、費用の捻出等が困難で医療受診ができない方、あるいは受診そのものを拒む方を医療につなげるために必要な場合に、その費用を補助することで医療受診を支援します。（上限：1万円）



ある社協における利用事例

利用者は軽度の知的障がいと適応障がいの疑いがあった。本人が障がいを受け入れていないこと、検査費用や診断書作成の費用もかかることから手帳取得に対しては消極的な状況であった。就労先の職場からは後輩が本人をフォローする状態になり不満が出ているため、検査を行っていただきたいとの話があった。

本事業を利用し、費用面の心配がなくなり、検査が進むにつれて本人の気持ちも変化し、「自分の状態を職場にも知ってもらいたい」と話すようになり、自分の障がいを受け止めることができるようになった。

手帳を取得したことで職場にも自分の状況を理解してもらい、「あんしん」して就労し、自立した生活を送っている。



地域住民との協働活動支援事業

社協の職員や関係する支援者などが地域住民と協力して、地域から孤立した住民等への支援に協働して取り組む場合に、必要となる経費を補助します。（上限：1万円）



ある社協における利用事例

利用者は高齢で一人暮らしをしており、ゴミ出しは集積所まで自分で搬入をしていたが、数年前に脚を負傷してしまい、手術により歩行が困難になりゴミ出しが出来なくなってしまった。当初は近隣住民の厚意によりゴミ出しが行われていたが、ここ数年、オムツ等の汚物が増えてきたことにより近隣住民に依頼することが出来なくなってしまった。ゴミも屋内に溜まってしまい、人に話さず地域から孤立してしまっていた。民生委員からのつながりで社協に相談があり、地域住民との協働活動支援事業を利用し、本人の了解のもと、近隣住民、民生委員、社協職員でゴミ出しを行った。

その結果、ゴミ等が処分され転倒リスクも減少し、あんしんして歩けるようになった。また、今回の事業で近隣住民との関係も良好になり、再び利用者が近隣住民の方へ毎週ゴミ出しの依頼ができるようになった。



住民が抱える課題は、自らの病気や障がいなどに社会的な背景が絡まり複雑化することが多くあります。こうしたことが生活困窮に至る要因になり、生活意欲の低下や自宅へのひきこもり、住まい環境の悪化などが見られるようになります。本事業はこうした状況やその方の困りごとに対応できるよう必要なメニューを開発し、その人の暮らしの「あんしん」をサポートする事業です。

お問合せ

長野県あんしん創造ねっと事務局（長野県社会福祉協議会内）
TEL：026-226-2035 FAX：026-291-5180

一人ひとりに応じたケアと教育で 笑顔と思いやりあふれる環境づくり



個々に応じた関わり方で全体に優しい雰囲気が漂います



役職を問わず気兼ねなく話せる風通しのよい雰囲気

社会福祉法人こまくさ福祉会 特別養護老人ホーム白駒の森(茅野市)

「笑顔忘れず」「優しさと暖かさ」のあるサービスの提供を理念に掲げ、徹底した理念教育と年50回という充実の研修制度により、正規職員・パートを問わず職員一人ひとりに理念が浸透している「こまくさ福祉会」。年3回、キャリアパスに応じた人事評価と個別面談を実施し、毎回、項目の見直しと評価者訓練も行うことで、ブレない公平な人事評価を行っています。また、オムツも使用しないなど、QOLとADLの向上をめざしています。こまくさ福祉会では「信州ふくにん」の評価基準を全て満たしていたことから、長野県の認証を受けることは職員の自信になり、結果的にケアの質の向上につながると感じて認証を取得しました。

勤務11年目となるユニットリーダー・竹永憲一さんも、入職後に介護福祉士をはじめさまざまな資格を取得し、成長してきた一人です。ユニットの旗振り役として大切にしているのが、法人の考えをスタッフ全員にわかりやすく伝え、皆が同じ方向を向いて働くこと。入居者の充実した暮らしをめざすとともに、職員にとっても毎日出勤したくなる働きやすい職場づくりを心がけています。そのために、入居者、職員ともに一人ひとりの個性を重視し、それぞれに合った介護や教育の仕方を考えて対応。入居者の平均要介護度は4.4で約4割が95〜105歳の超高齢者ですが、どんなに認知力が低下し障がいがあっても一人の人間として関わることで信頼関係を築き、入居者の穏やかな暮らしにつながっていることが職員のやりがいになっています。「リーダーとしては入居者とも職員とも笑って話せる存在をめざしていきたい」と竹永さん。時代の流れに応じて法人全体で常に新しい知識も技術も取り入れることで、さらなる個人の成長と地域貢献を見据えています。



WEBでも
ご覧になれます



信州福祉事業所認証・評価制度制度については「信州福祉・介護のひろば」HPをご覧ください。

●ご感想、お問合せ、掲載希望等は下記へお寄せください。

長野県社会福祉協議会
総務企画部 企画グループ
TEL 026-228-4244
FAX 026-228-0130
E-mail kikaku@nsyakyo.or.jp

webでもご覧になれます

長野県社会福祉協議会



福祉・介護べんり帖



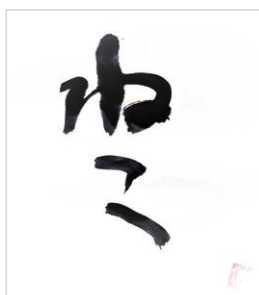
長野県福祉研修実施団体
きやりあねっと



信州福祉・介護のひろば



ざわめくアート



『僕は字が書けるんだ』



いくつかの福祉事業所で、墨遊びというアートワークを提供しているが、障がいが高く言葉でのコミュニケーションが取れない(実はこちらからかける言葉はかなり理解できている)人で、墨を含ませた筆を渡すと、ひたすら線を引く、ぐるぐるぐりぐりと書きなぐってしまう人がいる。以前その人は文字を知らないだろう、書けないだろうと思っていたのだが、さにあらず、文字をボードに書いて見せて、しっかりと筆を握らせ、肘を軽く持ち上げてやると、自分の意志で筆を動かし、文字が書ける人をたくさん見つけた。サポートする側は筆を誘導するのではなく、本人が手を動かそうとするまに支えるだけである。ああ、この人は字(ひらがな)を知っている、その形を知っていると支える手を通してわかる。感動である。しかし支えをはずすと、手はグルグルと筆を運びなぐり描きになってしまう。おそらく親御さんや学校時代に教えられて、文字の形は記憶の中に残っているのだが、脳でイメージされた形が手先へうまくつながらないのだろう。

*ただし、ぐりぐりと描きなぐられた墨の痕跡も、それはそれとしてなかなかのアート作品なのだ。

(ながのアートミーティング 取材)